

シラヒゲウニ放流技術開発（資源増大技術開発事業）

島袋新功・吉里文夫

本課題はシラヒゲウニの 1.種苗生産技術開発, 2.中間育成技術開発を栽培漁業センター, 3.放流技術開発, 4.関連調査を水産試験場が分担実施し, 平成 15 年度資源増大技術開発事業報告書 地先型定着性種(暖水域)グループに報告したので, ここでは水産試験場分担分の要約を報告する。

3. 放流技術開発

1) 放流方法の検討: 2003 年は今帰仁村地先に 3 回: 64 千個, 宜野座村地先に 5 回: 95 千個の計 8 回, 158 千個, 平均殻径 19.6(5.7 ~ 41.4)mm のウニを放流した。

放流ウニは 2004 年 7 月までに殻径 7 cm 以上に成長し漁獲が可能となり放流効果が期待される。漁獲制限解禁(7/1 予定)前までに放流ウニの追跡調査を行い放流効果を検証・検討する。

2) 食害の実態把握: シラヒゲウニの食害生物としてハリセンボンが確認された。

4. 関連調査

1) 天然ウニの生態解明: ウニ出現数が少なく前年同様に資源量推定はできなかった。また, 本調査法ではウニ資源量推定が困難と考えられた。

2) 漁業実態調査: 平成 2003 年の今帰仁村漁協のウニ漁期は 7/1 ~ 8/31, セリ出荷 700.6kg, 組合直売 96.4kg(12.1%)で合計 797.0kg, 金額 12,485 千円, ウニ漁獲数 58 千個であった。

宜野座村漁協のウニ漁期は 7/1 ~ 11/11, セリ出荷 416.2kg(38.1%), 組合直売・瓶詰 349.2kg(31.9%), 浜売り 328.0kg(30.0%)で合計 1,093.4kg, 金額 12,918 千円, ウニ漁獲数 44 千個であった。